

幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン

はじめの
100か月の
育ちビジョン

The First
100 Months of
Growth Vision



こどもまんなか
こども家庭庁

「はじめの100か月の育ちビジョン」とは？

- ✓ こどもが小学校に入るまでの重要な時期に、一人一人が健やかに育つことができるよう、みなさんに大切にしてほしい考え方をまとめました。
- ✓ すべての人に「はじめの100か月の育ちビジョン」に共感してもらうことで、社会の考え方を変えていくきっかけをつくるとともに、「羅針盤」が進むべき方向を指し示すように、国や自治体がどのような政策に取り組んでいくべきかを示す役割を果たします。



「はじめの100か月」とは？



誕生前

0歳

1歳

2歳

3歳

年少
4歳

年中
5歳

年長
6歳

※

小1
7歳

※幼保小接続の重要な時期

〔 10か月 〕 〔 12か月 〕 〔 12か月 〕 〔 12か月 〕 〔 12か月 〕 〔 12か月 〕 〔 12か月 〕 〔 12か月 〕 〔 12か月 〕

10か月

+

84か月

+

12か月

- ✓ お母さんがこどもを妊娠してから、小学校1年生の途中くらいまでが、だいたい100か月（※）。
- ✓ 長い人生において、人格の基盤を築く、はじめの重要な時期というメッセージが込められています。

※誕生月によって変動あり。94～106か月⇒概ね100か月。

「はじめの100か月の育ちビジョン」はなぜ必要？

「はじめの100か月」は、人生を幸せな状態（ウェルビーイング）で過ごすため、特に大切な時期です。
しかし、すべてのこどもがひとしく、健やかに育つことができるのかについては、課題があります。



生まれるとき、保育園などに通うとき、小学校に入るときや、家庭、園、関係機関、地域

などの間に「切れ目」が多いため、

- ✓ 社会全体で幼児期までのこどもの育ちを支える共通した考え方を広め、
- ✓ 「はじめの100か月の育ちビジョン」に関連する取組を力強く進めていく、道しるべが必要です。

ウェルビーイングとは？



「はじめの100か月の育ちビジョン」では、
「幸せな状態」を
身体、心、それを取り巻く環境や社会の状況、
すべての面で良い状態にあることとして捉えており、
これを専門用語で「ウェルビーイング」と呼んでいます。

バイオサイコソーシャルとは？

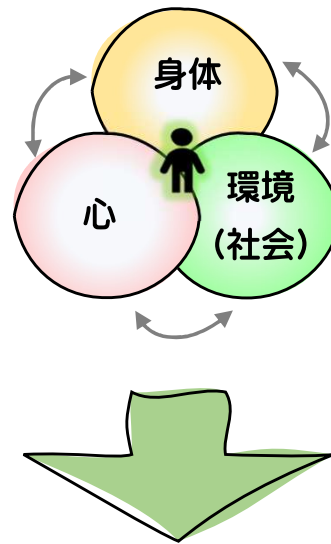
人の置かれた状況を見るときに、以下の3つの側面から捉える視点のことを指し、
この3つは互いに影響し合っています。

● 身体的 (バイオ)

● 精神的 (サイコ)

● 社会的 (ソーシャル)

バイオサイコソーシャルな観点で良い状態・幸せな状態



これらを保障することは、すべての人のウェルビーイング向上につながります。

何を大切に
するの？

幼児期までのこどもの育ちの5つのビジョン



- 01 こどもの権利と尊厳を守る
- 02 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める
- 03 「こどもの誕生日前」から切れ目なく育ちを支える
- 04 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする
- 05 こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す



こども基本法を踏まえて、権利や尊厳を守る



✓ 乳幼児は生まれながらに権利をもっている

すべての乳幼児が大切に育てられている。



✓ 乳幼児の生命や生活を保障する

どんな環境や状況にあっても、生命・健康・衣食住などが守られている。

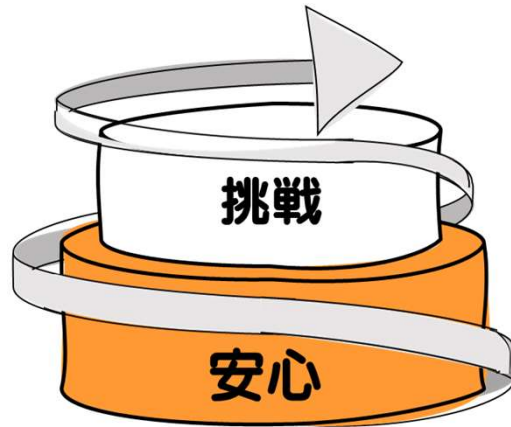


✓ 乳幼児の思いや願いを尊重する

乳幼児は、言葉だけでなく、様々な形で思いや願いを表現。
一人一人のペースに応じて、それらが尊重されている。

乳幼児の育ちには、

「安心」と「挑戦」の繰り返しが大切



豊かな遊びと体験



様々な人や自然・絵本などの環境と出会い、興味・関心に
応じた「遊びと体験」をすることで、外の世界へ「挑戦」



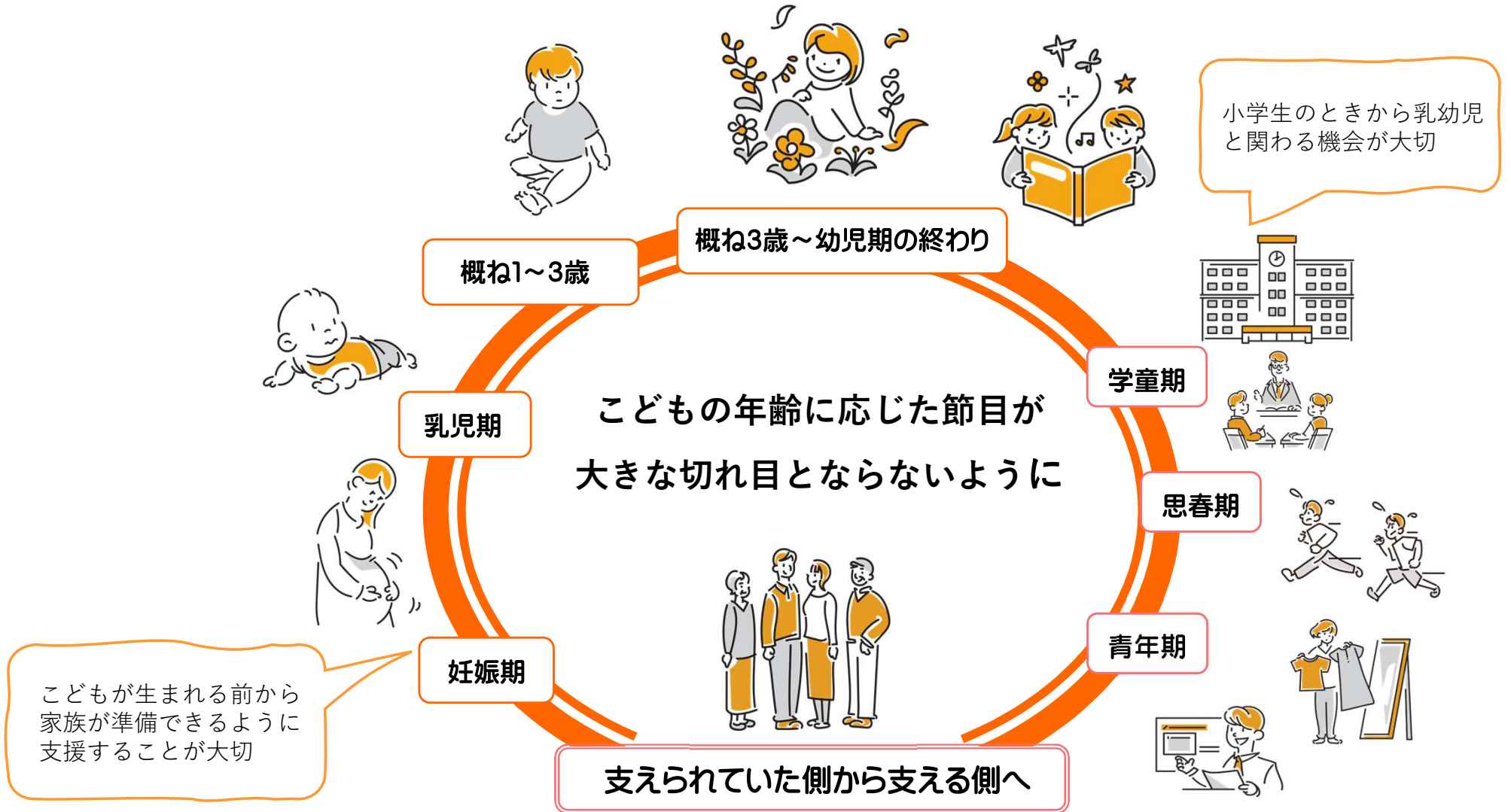
アタッチメント（愛着）



こどもが不安なときなどに身近な大人が寄り添うことや、安心感
をもたらす経験を繰り返すことが、「安心」という土台を築く

「こどもの誕生日前」
から切れ目なく
育ちを支える

育ちの環境を切れ目なくつくり上げ、 次世代を支える好循環をつくる



こどもを育てる、保護者や養育者を支える



✓ 支援・応援を受けることを当たり前

保護者や養育者が幸せな状態（ウェルビーイング）であり、親として成長できるよう、支援・応援は不可欠。



✓ すべての保護者やこどもとつながること

すべての保護者やこどもが必要な支援につながるよう、接点づくりなどの工夫が欠かせない。



✓ 保護者・養育者がこどもと「共育ち」

保護者や養育者自身も、「こどもとともに育っていく」という視点が大切。

05

こどもの育ちを
支える環境や社会
の厚みを増す

すべての人や環境を活かし、 オールジャパンでこどもの育ちを支える



これからは、保護者・養育者だけでなく、地域社会の全体でこどもを育てる時代。
みんながそれぞれの立場で、子育ての主役に。

こどもまんなか
こども家庭庁